

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100025		
法人名	株式会社 take care TAKE		
事業所名	グループホーム うすい		
所在地	〒820-0504 福岡県嘉麻市下臼井1082番地	Tel 0948-62-2700	
自己評価作成日	令和03年08月25日	評価結果確定日	令和03年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主治医、訪問看護、と連携を図り数年前より家族の要望もあり看取り介護に取り組みすでに4名の方の看取りをしている。今年は外出などの年間行事はコロナ感染防止のため中止としているが、室内でできる夏祭り、運動会、敬老会、誕生日会などは利用者楽しんでいただけるよう工夫してます。恒例のお節作り、利用者にもお手伝いして頂き正月にたくさん笑顔を見せていただいています。今後も理念に基づいたホームであり続けたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和03年09月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「うすい」は、「家庭的な雰囲気であいの絶えない毎日を楽しんでいただく17人の大家族」を理念に掲げ、ゆったりと利用者寄り添い、共に生活をしていくという考えの下、13年前に開設した定員9名のグループホームである。利用者、家族が希望される入居前からのかかりつけ医、ホーム提携医、訪問看護師、介護職員が連携し、安心の医療体制を整え平成28年より看取り介護にも取り組んでいる。「利用者の喜ぶ顔が見たい」と手作りの食事にこだわり、利用者の希望をメニューに取り入れる誕生会やたこ焼きパーティー、正月に一緒に行うおせち作りは利用者の大きな楽しみである。月1回、職員が交代で講師になって行う内部研修やリモートで受ける外部研修や資格取得に挑戦する意欲的な職員も多く、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。現在は、コロナ禍の為、地域の方や家族との交流が制限されている中でも、近所の方から野菜を頂いたり、地域代表や家族と頻りにコミュニケーションを図り、深い信頼関係が築かれている、グループホーム「うすい」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気のある17人の大家族という理念は変更することなく継続している。介護に携わるスタッフが自身の家族であればどのような生活を望むのかを常に忘れないに取り組んでいきたい	ホーム独自の理念を玄関の見やすい場所に掲示し、利用者と職員が大きな家族のように思い合い、助け合って、笑いの絶えない毎日を過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常日頃から利用者の会話、表情から思いや希望をくみ取れよう声掛けを行っているがなかなか自分の思いや希望を伝えられない利用者もいらっしゃる。空いた時間や入浴時等に話を傾聴出来るようにしている	自治会に加入し、地域の一員として町内の清掃に職員が参加する等交流に努めてきたが、現在はコロナ禍の為自粛している。近所の方が野菜を持参したり、区長を通じて、AEDを設置していることを地域住民に周知してもらう等、出来る範囲の中で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長の交代があり新区長にホームの概要を説明。運営推進会議の参加を依頼すると共に認知症の方で困っている方等いらっしゃれば何時でも気軽に連絡して頂くよう声掛けしている。又AED設置していることも伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	従来であれば利用者、利用者家族、区長、行政の方、近隣の特養の相談員、デイサービスの所長等参加して頂いているが本年はコロナ感染防止のため会議が開催されなかった。資料を各関係者へ持参し確認して頂いている	会議は、利用者や家族、区長、市職員、知見者が参加して2ヶ月毎に開催してきたが、現在は新型コロナ感染症対策の為、書面で報告を行っている。委員からの意見や情報提供等があった場合にはそれらについて検討し、サービス向上に活かしている。	コロナ収束後には、元家族や出入りの薬剤師、歯科衛生士、近隣の方等、幅広く声掛けをして委員の増員を図り、知識や情報を得て地域の課題についても一緒に話し合えるような運営推進会議を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のケアプランチェック研修会や運営推進会議などでホームでの実情を報告している。市から近くに近親者がいない方の入居相談を受けたり、逆の場合もあつたりと協力関係を築いている	コロナ禍以前は、運営推進会議での情報交換や市町村主催の研修会への参加、市からの提案を受けて他グループホームとの交流に取り組む等、協力関係を築いてきた。管理者は、行政担当窓口、ホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例等を相談するなどして連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	従来であれば玄関に施錠は一切してないが、コロナ感染防止の観点から利用者の親戚や知り合いの方が不意に中に入って来られることもあり現在玄関を施錠している。身体拘束をしない事に関しては2か月に1回身体拘束適正化委員会を開催しスタッフが知識を身につけるようにしている	年2回、身体拘束の職員研修を実施して、「身体拘束0宣言」を示し、新聞記事や外部研修の資料を用意して学んでいる。2ヶ月に1回、運営推進会議の後に身体拘束適正化委員会を開催し、日頃のケアの振り返りと確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待について内部研修を行っている。未経験のスタッフには入職時にオリエンテーションをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見人制度については研修を行っている現在入居されている方が制度を必要とされているかも合わせて話し合っている	過去に権利擁護の制度を活用していた利用者がいた為、手続きや後見人とのやり取り等を通じて、制度についての理解を深めることが出来た。制度に関する資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、内容や申請手続きについて説明し、制度が活用できるよう支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はホームとして出来る事・出来ないことを明確にし十分納得されて契約が結べるようにしている。契約後であっても何時でも疑問点等あれば問い合わせ出来る事も伝えている。改定等の際は同意文書を作成、十分説明後サインをいただくようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何時でも自由に書くことが出来るよう玄関に意見箱を設置している。現在コロナ禍で面会中止としている為家族へは電話にて要望等伺っている	新型コロナウイルス対策で面会が中止となっている為、勝手口や事務所の窓越しに差し入れや支払いを受け取っている。その際に、家族とコミュニケーションを取りながら、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、出された内容を介護サービスに反映できるよう取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回勉強会を開催。担当になったスタッフがテーマを決めて資料作成し勉強会を進行している。スタッフの中に大工経験者があり自分たちにとって仕事をしやすいように棚を作りたいとの要望あり。代表者も喜んで依頼し男性スタッフ3人で協力して棚を作り整理整頓しやすい場所が出来ている	毎月職員会議の中で、職員が持ち回りでテーマを決めて勉強会を行い、新人職員向けに「認知症とは」等、基本に戻って学ぶ機会を設けている。話しやすい雰囲気の中で、職員から出された意見や要望、心配な事等を管理者が代表に伝え、迅速に対応出来る体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は公平性を保つことが出来るよう作成。各々の勤務形態、希望休なども遠慮なく言っただき安心して仕事に集中できるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用は基本ハローワークを活用。年齢、学歴、性別、経験を問わず職員を採用している。経験の浅い職員には経験を重ねることで将来資格取得できることを伝え意欲を持てるよう奨励している	管理者は、職員一人ひとりの事情を汲んでシフトや希望休に配慮し、職員の特技や能力を活かした配置を行う等、働きやすい職場環境を整え、職員の離職は少ない。研修の受講や資格取得を奨励し、職員一人ひとりのスキルアップに取り組んだ結果、有資格者が多く質の高い介護サービスに繋がっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権教育は内部研修を行っている。又スタッフに対してもコロナ禍の中外部研修は難しいためズーム研修に全員が参加している	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者がホームの中で安心して楽しく暮らすことが出来るよう支援に取り組んでいる。また、利用者のプライバシーが損なわれていないかをカンファレンスで確認し、職員への意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常日頃から利用者の会話、表情から思いや希望をくみ取れよう声掛けを行っているがなかなか自分の思いや希望を伝えられない利用者もいらっしゃるのでは、空いた時間や入浴時等に話を傾聴出来るようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者やケアマネと気軽に電話で意見交換が出来るようにしている又スタッフ間でも気軽にお互いが取り組んでいる事を聞き参考にさせてもらっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族と面談し本人様の情報を得て家族も一緒に自宅や病院等へ出向くようにし本人様の話を傾聴するようにしている。得た情報をスタッフへ報告し本人様が不安なく入居できるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に家族の思いを十分に伺うようにしている。ホームで対応できる事出来ないことを伝え本人様や家族の方が納得してホームへ入居されるようにしている。又入居後も不安なことや疑問に思うことがあれば何時でも話を伺い説明することを伝えている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に本人様、家族が必要としている事や思いを聴きサービスを提供していきます。介護保険外のサービスもホームとして対応できることは快諾し安心していただけるようにしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームは本人様の出来る力を見極め全て介護するのではなくホームで行っている家事なども複数の利用者に役割を持って手伝って頂くようにしています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも受診同行や外出支援をして頂いていたが現在コロナの影響で外出禁止にしている。面会や外出が自由に出来るようになれば今まで通りの関係を築いて頂けるよう支援していきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出を禁止にしている。身内の方から利用者の状態を確認する電話などがあった場合は身元を確認させていただき報告している。面会できるようになった際は是非会いに来ていただくよう声掛けしている	コロナ対策以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛げる場所を提供して、いつでも面会出来る体制を整えていたが現在は自粛している。在宅時からのかかりつけ医を継続できるよう支援し、馴染みの関係を大切にされた支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士交流が図れるようにスタッフが間に入り会話をしている。家族(家族同意の下)の方が持参されたお菓子を他利用者にも本人様が配りスタッフはお茶を用意して一緒に楽しい会話出来るように努めている		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方の飼い犬をホームで世話をしている為その方の家族が会いに来られる。家族も高齢のため担当ケアマネと連絡を取っている。又長期入院で退去された方の家族が遠方に在住のため洗濯物や物品購入などホームの方で面会に行きお世話していた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを作成する際には本人様に意向を確認しているが聞き取りが難しい利用者には家族にその旨も伝え家族の要望も含めて本人本位となるようにしている	入居時に、利用者や家族からこれまでの生活環境や馴染みの関係等の情報を聴き取り、利用者へのアプローチに活かしている。ホームで共に過ごす中で、利用者の思いや意向の把握に努め、家族に相談しながら、出来るだけ実現出来るように取り組んでいる。困難な場合も、利用者の表情や仕草から、思いを汲み取るよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネ、ソーシャルワーカー、家族等から情報提供して頂き本人の今までの生活状況等を把握できるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフは利用者の様子を昼夜観察、記録に残し心身の状態をスタッフ全員が周知出来るようにしている又直ぐに介助するのではなく声掛けし自身で出来る事はして頂くようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの際得た情報で歩行状態が悪くなってきている利用者について家族に事情説明し歩行しやすい靴を購入して頂いた。本人のモチベーションも上がり歩行訓練を楽しく出来るよう介護計画を作成している	3ヶ月毎に行うモニタリングの中で、利用者の現状や暮らしぶりを確認している。利用者、家族の意見や要望を聴き取り、主治医や訪問看護師からのアドバイス、介護職員の意見を取り入れ、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化があれば、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況を個別に記入し職員間で情報を共有。その都度介護計画の見直しに活かせるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナ禍で日々難しい状況ではあるがその中で家族へ本人が行事に参加された写真をお渡ししたり。仏壇があるのにお盆を忘れていた利用者にはお伝えし供物や仏花を依頼され購入している。コロナ以前はお墓参りにも付き添い介助をしていた		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	担当地域の交番、消防署に利用者の状況をファイルにして預かってもらい必要時参考にして頂くようにしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医希望の方は継続し、高齢になり看取りも視野にいれないといけない状況の方は家族の希望もあり主治医変更しホームの協力医療機関へ受診介助している	入居前からの馴染みのかかりつけ医の受診が継続できるように支援し、受診結果を家族に報告して利用者の医療情報を共有している。週1回、訪問看護師が健康チェックを行い、利用者の小さな変化も見逃さず、24時間安心の医療連携体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師来所。1週間の状態説明行っている。又週3回透析治療されている方はその都度連絡帳等使い連携を図るようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は洗濯物や必要物品等もあるため週2～3回面会に行きその時に主治医や看護師ソーシャルワーカーと連携を図り情報の共有を図ることで早期に退院できるようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族には早期に話し合い看取りに関しての同意を得ている。訪問看護、協力医との連携の中で終末期に差し掛かってきた時には家族の方医療関係の方と再度話し合い看取りに向けた契約を交わし納得して頂けるようにしている。家族の方には安心していつでも訪問して頂くようにしている	家族の強い要望を受けて職員間で話し合い、終末期の体制を整えて平成28年から看取り介護に取り組んでいる。利用者の重度化に伴い、再度、家族の希望を確認し、主治医や訪問看護師を交えて方針を決定し、利用者が安心して終末期を迎えることが出来る環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部研修は殆ど出来ていないが、研修の担当スタッフが資料を作成。内部研修を行い全てのスタッフが緊急時に冷静に対応できるようにしている。利用者急変時には何時でも訪問看護師に連絡し指示を仰げる体制を作っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	担当スタッフが資料作成、全スタッフが高い意識を持って対応できるように内部研修をしている。通報訓練・誘導訓練を行うと共に日勤帯を想定しスタッフ間で連携が図れるようにしている。非常災害時の緊急連絡網を作成しておりそれに沿ってスタッフが何時でも駆けつけることが出来るようにしている。	非常災害に備えた避難訓練を年2回実施し、これまで夜間想定を中心に行っていたが、今回は連携を確認するために日中想定での訓練に取り組んでいる。避難後に居室のネームプレートをひっくり返すことやシーツを使ったの避難等、具体的な行動を一つ一つ確かめ、利用者が安全に避難できるよう努めている。	職員が、いざという時に慌てず落ち着いて行動できるように、頻繁に避難訓練を行い非常時に近隣住民の協力が得られるよう、体制作りに取り組んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を傷つけない様な声掛けを日頃から行い他入居者の方との会話にも耳を傾けトラブルが起きないように心配り、気配りをするよう努力している	利用者の人権を守る介護の在り方について、管理者が繰り返し職員に伝え、振り返り、確認を行いながら利用者一人ひとりの人格を尊重した介護サービスに取り組んでいる。特に、排泄や入浴の支援では、声掛けや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から利用者の会話、表情から思いや希望をくみ取れよう声掛けを行っているがなかなか自分の思いや希望を伝えられない利用者もいらっしゃるの、空いた時間や入浴時等に話を傾聴出来るようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課の声掛けは必ず行いますが本人が拒否した場合は体調不良等もあるため身体観察し自身で決めたことは強制せず本人の意思を尊重するようにしています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で美容院などの外出も控えている為現在利用者全員スタッフが散髪を行っている。楽しみにされているようでどの部分をどれ位など本人が思いを伝えることが出来る。家族の髪染めの依頼にも対応している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が味わえるような食材を提供している。誕生会など本人様の希望を取り入れたメニューにしたり野菜の下処理など手伝って頂いている。利用者様の中にはスタッフをねぎらって洗い物を全部して下さる方もいる	食事は利用者の楽しい時間と捉え、食べたい物を尋ねて作る誕生会の祝膳や手作りのおやつ、利用者と一緒におせち作りに挑戦する等、利用者の力を活かしながら食を楽しめるよう工夫している。近隣施設の管理栄養士が作った献立を基に、職員が交代で心を込めて作る美味しい料理を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きちんとした栄養バランスの摂れた食事が提供できるよう近隣施設の管理栄養士から献立を頂いている。水分量や食事摂取量が確認できるよう記録している。又夏場は熱中症にかかりやすいため常にスポーツドリンクや水分を摂ることが出来るようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回訪問歯科来所。利用者の口腔ケアに関してアドバイスを受けこれを基に各利用者のケアを行っている。夕食後は口腔内を清潔に保ち義歯は洗浄剤に浸けている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつは最終手段とし出来る限り尿意や便意を訴えトイレに行こうとする利用者には紙パンツを使用し頂き誘導を行っている。排泄表で間隔をつかみ各自トイレ誘導することで不快な思いをなるべくなくすようにしている	職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して、利用者が重度化しても職員2人体制でトイレでの排泄を支援している。また夜間は、利用者の希望を聴きながら、出来るだけトイレで排泄出来るように支援し、ポータブルトイレを使用したり、パットの使い方を工夫して、清潔で快適な支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方も多い為医療関係の方にも状態報告。水分補給の時間は体操も取り入れている。他にも各部屋に配茶、食堂に出て来られた時には直ぐにスポーツドリンクやお茶を提供するようにし便秘解消に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週に3回と決めているが、本人の拒否や汚染されてりしている方なども居られる為曜日、時間問わず柔軟な対応をしている。浴室内では利用者とスタッフ二人だけのため安心して色々話することが出来るよう声掛けしている	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、週3回は入浴できるよう支援している。入浴が難しい利用者には、時間を変更したり、職員が代わって声掛けし、無理強いせずに清拭や足浴に変更する等、柔軟に対応している。また、入浴時間は、利用者と職員がゆっくり会話できる大切な時間と捉え、声を掛けながら楽しく入浴できるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事など決められた共有時間以外は各々自分で決めた場所、談話室や居室で昼寝をされたり自由に過ごされている。昼寝などされない方はスタッフと一緒に食堂で過ごされている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より処方されている薬は記録に収めている。内服薬変更となった場合等は契約している調剤薬局の方が副作用等説明して下さる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦だった方には野菜の下ごしらえや洗濯物たたみ等を常時手伝って頂いている。塗り絵が好きな方にはスクラッチアート等用意している。夢中になって作成された作品は食堂の壁や居室に展示している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年はコロナの影響で殆ど外出できていない。従来であれば盆には墓参りに同行介助したり仏壇のお供えと一緒に近所のスーパーに買いに行ったりしている。又馴染みの美容院などにも行かれていた。	コロナ対策以前は、天気の良い日を利用して、近隣の散歩や土筆取り、バラ園見物、紅葉狩り等、季節毎に外出支援に取り組んでいた。買い物の希望があれば、同行して欲しいものを自分で選んでもらったり、病院受診の帰りに外食を楽しむ等、利用者の生きがいに繋げていたが、現在はコロナ禍の中で自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族がお金を持たせておられない方が殆ど。初詣に行った時などお詣りにはお賽銭が必要と記憶されておりスタッフの方で小銭を準備している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方は家族から電話があった場合本人が気づかない為スタッフが取り次いでいる。家族に近況報告の電話をした時などに本人に相手の名前を告げて話をすることが出来るようにしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりとした空間にしている。玄関には季節の花を活けたり利用者が描き壁に飾って欲しいと言われた塗り絵やスクラッチアートを飾っている。利用者の中には何度も食堂と居室を行き来される方が居られる為ゆったりと落ち着いた空間を作っている	日本庭園を望むリビングに大きなソファを置いて、ホームで飼っている愛犬の動きに目を細めながら、歌を歌ったり、体操やゲームで盛り上げる等、それぞれが自由に過ごしている。ゆったりとした室内は、音や照明、温度や湿度、換気に配慮し、清掃が行き届いた清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や入浴以外は各々好きな時間の過ごし方をされ一旦居室へ戻ってもすぐに出て来られ食堂で他利用者と一緒にお茶を飲みながらとりとめのない会話を楽しませている。談話室で昼寝をされる方や庭にいる犬に声を掛けられたりと自由に時間を使われている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族には使い慣れたものや親しんでいる物等等自由に持って来て良いことを伝えている。仏壇を持って来られている方も複数おられスタッフが毎朝御仏飯を居室まで持っていくと直ぐに参られ安堵したような表情をされる	各居室に温かい雰囲気のある暖簾を掛け、ネームプレートを付けて、利用者の馴染みの家具や寝具、仏壇や家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、その人らしい居室となるよう配慮し、利用者が安心して穏やかに過ごす事ができるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	サイドレールを利用して自身で寝返りや自身で立つことが出来るように設置している。片麻痺車椅子の方には出来るだけ手すり等を利用してながら自走して居室へ戻る事が出来るようにしている。又廊下には利用者が移動する際事故防止のためにも物を置かないようにしている		